



東北日東工器(株) おおざそう工場
TOHOKU NITTO KOHKI CO., LTD Ozaso Factory



算定単位

建築物 1棟 耐用年数65年あたり

算定対象段階

☒最終財 ☐中間財

資材製造, 建設, 使用, 解体・廃棄物等処理段階

製品の型式、主要仕様・諸元

階数: 地上2階 構造: 鉄骨造
用途: 事務所・工場 耐用年数: 65年
敷地面積: 28,183.1m² 設備工事, 外構を含む
建設地域: 福島県福島市
建築面積: 14,326.2m²
延床面積: 19,954.9m²

登録番号	JR-AA-24001E
適用PCR番号	PA-241000-AA-09
PCR名	建築物【第9版】
公開日	2025年8月4日
検証合格日	2025年5月27日
検証方式	個品別検証方式
検証番号	JV-AA-24001
検証有効期間	2030年5月26日

PCRレビューの実施

認定日等	2023年 5月 10日
委員長	柴原 尚希 (所属 中部大学)

第三者検証者*

外部検証員 浏览智子
ISO14025およびISO21930に従った本宣言及びデータの独立した検証

☐内部 ☒外部

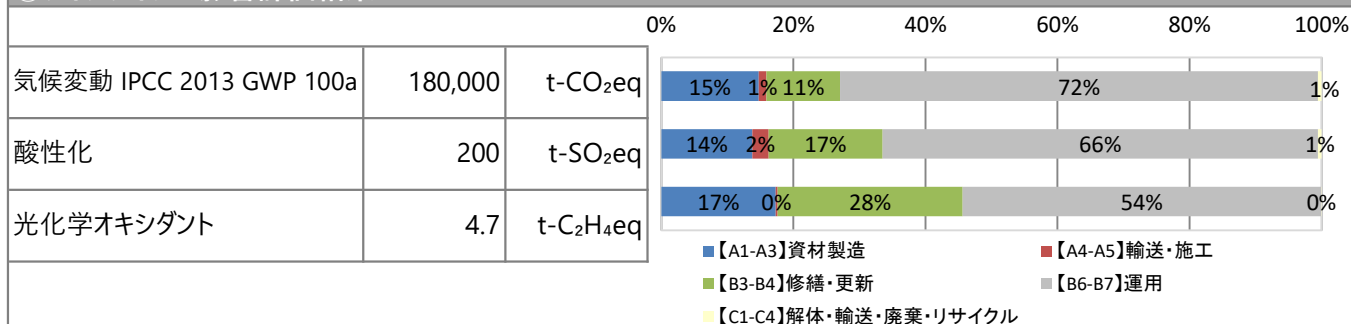
*システム認証を受けた事業者内の検証の場合は、システム認証を行った審査員の名前を記載。

問い合わせ先

安藤ハザマ 技術研究所 脱炭素技術開発部

TEL:029-858-8814

①ライフサイクル影響評価結果



内訳	項目	単位	合計	[A1-A3] 資材製造	[A4-A5] 輸送・施工	[B3-B4] 修繕・更新	[B6-B7] 運用	[C1-C4] 解体・輸送・廃棄・リサイクル
気候変動	t-CO ₂ eq	1.8E+05	2.7E+04	2.1E+03	2.0E+04	1.3E+05	9.8E+02	
オゾン層破壊	t-CFC-11eq	3.6E-02	2.4E-03	2.5E-05	2.0E-03	3.2E-02	8.0E-08	
酸性化	t-SO ₂ eq	2.0E+02	2.7E+01	4.8E+00	3.4E+01	1.3E+02	1.1E+00	
都市域大気汚染	t-SO ₂ eq	1.5E+02	2.1E+01	1.8E+00	2.7E+01	9.9E+01	3.8E-01	
光化学オキシダント	t-C ₂ H ₄ eq	4.7E+00	8.1E-01	1.3E-02	1.3E+00	2.5E+00	3.2E-03	
有害化学物質(発がん性)	t-C ₆ H ₆ eq	1.3E+02	2.3E+01	1.2E-02	3.6E+01	7.1E+01	5.5E-03	
有害化学物質(慢性)	t-C ₆ H ₆ eq	2.0E+00	7.6E-01	6.9E-03	7.3E-01	5.2E-01	3.2E-03	
水生生態毒性	t-C ₆ H ₆ eq	6.6E+02	1.2E+02	2.0E-01	1.8E+02	3.6E+02	2.5E-02	
陸生生態毒性	t-C ₆ H ₆ eq	1.1E+04	1.7E+03	4.9E+00	3.0E+03	6.2E+03	1.0E-02	
富栄養化	t-PO ₄ ³⁻ eq	6.2E+00	8.5E-01	6.3E-06	6.0E-01	4.8E+00	1.3E-07	
土地利用(維持)	m ² /年	1.7E+03	6.2E+02	9.8E+01	2.5E+02	6.8E+02	1.9E+01	
土地利用(改変)	m ²	3.0E+01	4.0E+00	2.0E+00	5.2E+00	1.9E+01	3.8E-01	
資源消費	t-Sbeq	4.8E+00	1.5E+00	9.1E-03	2.3E+00	8.9E-01	4.1E-03	

②ライフサイクルインベントリ分析関連情報

項目		単位
非再生可能資源	6.2E+07	kg
非再生可能エネルギー	7.1E+07	kg
非再生可能エネルギー	2.9E+09	MJ
再生可能資源	8.9E+06	kg
再生可能エネルギー	9.0E+08	MJ
淡水の消費	7.0E+05	m ³
排出, CO ₂ (化石資源由来), 大気, 不特定	1.7E+08	kg
資源, 原油, 44.7MJ/kg, 陸域, 非再生可能エネルギー	1.3E+07	kg
排出, 揮発性有機化合物, 大気, 不特定	2.2E+01	kg

③材料及び物質に関する構成成分

材料・物質（使用部分）		単位
コンクリート	50.6	%
金属類	13.0	%
木類	0.2	%
プラスチック類	2.0	%
ガラス・陶磁器類	34.1	%
その他（紙類）	4.8E-04	%

④廃棄物関連情報

項目		単位
有害廃棄物	—	kg
無害廃棄物	7.8E+05	kg
一般廃棄物 埋立物	2.1E-02	kg
産業廃棄物 埋立物	7.8E+05	kg

※ライフサイクルにおける廃棄物量を示しています。

⑤算定結果に関する追加情報

【評価対象範囲・プロセスに関する追加情報】

・建築工事（山留、杭、土、躯体、仕上）、雑・ユニット工事、設備工事、外構・その他工事を対象としています。
・全ライフサイクルプロセスを対象していますが、使用段階における「B1 建物からの物質の放出」（例えば、冷媒・断熱材からのフロン漏洩等）、「B2 維持管理」（建築物の日常的なメンテナンス（清掃、エアコンフィルターの交換、使用者の活動に伴う排水、廃棄物等）は含まれていません。また、「B5 改修」（用途変更による大規模改修工事など）は想定していないため対象外としています。

【活動量に関する追加情報】

・建築資材の投入量については、設計・積算情報を用いています。
・使用段階のエネルギー使用量は、配電盤容量や水理計算書の情報を用いています。
・施工時のエネルギー投入量については当社データ（鉄骨造の施工実績に基づく・電力、灯油、軽油使用量/m²）を用いています。
・解体時のエネルギー投入量については、PCR10-4「【解体工事時の燃料使用量に関するシナリオ】に基づく文献データ（軽油使用量/m²）を用いています。
・解体後の廃棄物処理・処分に関しては、新築時に投入された資材と同量の廃棄物が発生すると想定し、木くず、廃プラスチック類、ガラス・コンクリートくず、がれき類、金属くず、その他に分類のうえ、各総重量を産廃処理、埋立処分の比率に分けてそれぞれ算定しています。

※本算定では、上記のとおり、将来投入される数量の推計値を設計・積算情報や過去の実績データや統計に基づいて活動量を収集しているため実際の活動量と異なる場合があります。そのため、本評価結果は概算値としてご理解ください。

⑥-1.その他の環境関連情報

本建物は掘削残土の場内再利用、低燃費重機の利用等により環境保全に配慮し施工しています。

⑥-2.有害物質に関する情報

項目	CAS No.	法令等
—	—	—
—	—	—

⑦使用した二次データの考え方

IDEA ver.3.1.0を使用した。

⑧備考

—

- データ算定の方法は、PCRおよび算定・宣言規程を参照してください。
- 比較については、算定・宣言規程に規定された条件を満たした場合にしか認められません。
（参照先URL：<https://ecoleaf-label.jp/regulation/>）